

インフォメーション・コーナー

会 告

○平成 30 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について 申請締切 4 月 13 日	74
○今年もやります！ こりゃ映像！ 2018 —ミニ動画コンテスト— 応募締切 7 月 31 日	75
○学会誌企画・編集委員会 学生委員の募集について 応募締切 3 月 30 日	75
○学生会員入会時の特典について	76
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	76
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!	76
○平成 31 年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6 月 30 日	77
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	78
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2016 年 7 月から 2018 年 6 月までの編集事務局について	79
○平成 29 年度東京フォーラム（農村振興研修会）の開催について ㊦ 2 月 22 日開催	80
○平成 29 年度農業水利研究部会研究集会の開催について（第 2 報）㊦ 2 月 17 日開催	81
○水土文化研究部会第 15 回研究会の開催について（第 2 報）㊦ 参加申込締切 3 月 1 日	81
○第 3 回理論応用力学シンポジウムの開催について 3 月 5 日開催	82
○第 55 回アイソトープ・放射線研究発表会発表論文の募集について 発表申込締切 2 月 28 日	82
農業農村工学会論文集内容紹介	83
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	84
受入れ図書	85
文献目録	85
学会記事	89

第 86 巻第 3 号予定

展望：溝口 勝

小特集：農業農村工学における ICT 活用の取組み、課題と展望（前編）（仮）

報文：農地利用調査・荒廃農地調査へのモバイル GIS の活用：芦田敏文ほか

報文：携帯端末を活用した水路点検巡視と GIS データベースの開発：丸山祐輝

報文：ICT を用いた屋外観測データ収集と Web 評価：鷺尾英雄ほか

報文：MMG システムによる農業・農村伝承文化の資源化と活用：山下裕作ほか

報文：水管理時間の簡便な測定方法と ICT 型給水機への適用：坂田 賢ほか

報文：UAV と SfM (Structure from Motion) による高精度な 3 次元地形モデルの作成方法に関する検討：
藤原洋一ほか

技術レポート

北海道支部：基盤整備におけるリモートセンシングの利用推進の取組み：片桐俊英ほか

関東支部：利根大堰施設 須加樋管（門柱部）の耐震設計・施工：高上沙羅葉ほか

京都支部：軟弱圃場における盛土荷重載荷工法の施工事例：池田輝彦ほか

中国四国支部：高根大橋の耐震補強工法：冠地 諭ほか

九州沖縄支部：ファームボンドの水質保全と維持管理：大古場真二

講座：農業農村整備のための生態系配慮の基礎知識（3）

—水田・農業水利施設の両生類相とその保全—：渡部恵司

私のビジョン：折立文子

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成30年2月6日	京都支部	平成29年度地方講習会・支部研修会 Ⓟ	—	京都市	86巻1号
平成30年2月17日	農業水利研究部会	平成29年度研究集会 Ⓟ	農業用水の管理を考える	東京都	86巻1,2号
平成30年2月22日	全国農村振興技術連盟・農業農村工学会	平成29年度東京フォーラム Ⓟ	基盤整備と連携した担い手の育成と輸出強化～農業を取り巻く国際情勢と農地中間管理機構～(平成30年度農業農村整備関係予算政府案の概要)	東京都	86巻2号
平成30年3月9日	水土文化研究部会	第15回研究会 Ⓟ	水土の“こころ”	東京都	86巻1,2号
平成30年9月4～7日	大会運営委員会	平成30年度農業農村工学会大会講演会 Ⓟ	—	京都市	85巻12号 86巻1号
平成30年11月20～22日	農業農村工学会ほか	PAWEES-INWEPF 国際会議 奈良2018	Promoting sustainable paddy farming to achieve the SDGs	奈良市	86巻1号

平成30年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について

農業農村工学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施しております。

平成30年度は、規程第4条(1)の「特定の分野及び学術的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業農村工学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページより申請書をダウンロードして、E-mailで学会事務局までお申し込みください。

記

1. 援助の対象

農業農村工学会の会員(学生会員を含む)、または会員により構成されるグループで代表者は論文集またはPWE誌の購読者(援助決定後の購読も可)

2. 援助方針

- (1) 農業農村工学に関する特定の分野および学術的分野の調査・研究の推進に寄与と思われる研究について援助する。
- (2) 平成30年度中(平成30年4月から31年3月)に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援助する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。

ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。

この場合、援助の可否については受理を条件として決定を行う。

- (3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1件当たりの援助金の目安

1件15万円程度とする。

4. 申請締切 平成30年4月13日(金)

5. 報告の義務

援助を受けた者は、調査・研究、または会議の報告書を提出する。その原稿は学会誌に掲載される。

また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。

6. 申込み・問合せ

〒105-0004

東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階
(公社)農業農村工学会 学術基金運営委員会
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: suido@jsidre.or.jp

今年もやります！ こりゃ映像！ 2018 —ミニ動画コンテスト—

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

平成30年度のテーマは「私のかんがい施設遺産（仮）」です。「かんがい施設」とは、農地に水を配るために使われている施設で、ため池や水路、堰などです。私たちの周りには、歴史あるかんがい施設が今も変わらず使われ続けています。中でも、世界に誇るかんがい施設として27カ所のかんがい施設が「世界かんがい施設遺産」に登録されています。

今年のこりゃ映像では、そのような「世界かんがい施設遺産」を代表とする身の回りの歴史あるかんがい施設を対象に動画を募集したいと思います。身の回りの歴史あるかんがい施設の魅力を60秒に込めてYouTubeにアップロードしてください。

1. 平成30年度のテーマ 「私のかんがい施設遺産（仮）」
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 応募締切 平成30年7月31日（火）17時
4. 応募資格 なし（どなたでも応募できます）
5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタグを付けてアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。
7. 賞金 最優秀賞（1作品）2万円
優秀賞（2作品）各1万円
8. アップロード方法
 - ① 動画を作成する。
 - ② YouTubeにアップロードする（9. 参考資料を参照）。
 - ③ タグに3つのワード（jsidre2018, こりゃ映像, (テーマ未定)）を入れる。

- ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
- ⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT（jsidre.eizo@gmail.com）宛にメールで送る。
入賞賞金をお渡しするのに必要な情報（氏名、年齢、性別、所属、連絡先、YouTube動画のURL）

9. 参考資料

- ・YouTubeにPCから動画をアップロードする方法
<http://douga-tec.com/?p=4974>
- ・スマホからYouTubeに動画をアップロードするには—Android入門
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>
- ・【2017年版】Youtube（ユーチューブ）に動画をアップロードする方法
<https://www.youtube.com/watch?v=O1slFYR0KIY>
- ・動画作成のヒント（超かんたん動画投稿法）
<https://www.youtube.com/watch?v=eq5PUALLukk>

<参考>こりゃ映像2017 結果（テーマ：農業用水）

最優秀賞：【農業用水】人と自然の力

弘前大学農学生命科学部地域環境工学科4年 山口裕里絵
https://www.youtube.com/watch?v=y5J1-Ox_S7A

優秀賞：私の町の農業用水

岩手大学農学部農学生命課程3年 瀧田耀平
<https://www.youtube.com/watch?v=owtqvopLgzA>

優秀賞：こりゃ映像2017 金沢工業大学 徳永研究室

金沢工業大学 徳永研究室修士1年 笹原弘道
<https://www.youtube.com/watch?v=uP0Ra69-BRo>

学会誌企画・編集委員会 学生委員の募集について

学会誌企画・編集委員会では、学生向けの企画などを担当していただく学生委員を募集いたします。

募集要領は次のとおりです。ふるってご応募ください。

1. 応募資格
 - (1) 学生会員であること。（応募時に入会も可。）
 - (2) 年3回程度開催の委員会（東京都港区新橋にて開催）に出席できること。（旅費を支給します。）
 - (3) E-mail, Web が使える環境にあること。
 - (4) 指導教官の承認を得ること。
2. 任期 平成30年4月から最長で2年。卒業、就職等で途中退任も可。
3. 募集人数 1名
4. 応募締切 平成30年3月30日（金）

5. 応募方法

下記①～⑧を記入の上、henshu@jsidre.or.jp までメールでお送りください。

- ①会員番号, ②氏名, ③大学名, ④平成30年4月からの学年, ⑤性別, ⑥年齢, ⑦承認を得た指導教官名, ⑧連絡先メールアドレス

6. 問合せ

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

学生会員入会時の特典について

農業農村工学会では、従来から行っていた入会時特典のハンドブック3点セット（ハンドブック+用語事典+初年度会費）に加えて、次の入会時特典を新たに設けることといたしました。

これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

①ハンドブック3点セット

（ハンドブック+用語事典+初年度会費）

学部生 17,000円 (15,750円)

大学院生 19,500円 (16,750円)

②必携3点セット

（必携+用語事典+初年度会費）

学部生 7,000円 (5,750円)

大学院生 10,000円 (7,250円)

③2点セット

（用語事典+初年度会費）

学部生 5,000円 (3,750円)

大学院生 8,000円 (5,250円)

（ ）内の金額は、10月1日以降入会の場合。

なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを提供いたしません。

ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック

必携：資格試験のための農業農村工学必携（第二版）

用語事典：改訂5版農業土木標準用語事典

問合せ先 (公社)農業農村工学会 図書係

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌2月号掲載の問題は3月末日が解答期限）

5. 取得できるCPD単位

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録

（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成 31 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成 31 年発行の学会誌も引き続き学会員の皆さまからの写真を基本に表紙を飾ることとします。なお、平成 30 年発行までの本趣旨を若干変更いたしましたので、趣旨を参考に魅力ある写真をふるってご応募ください。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は稲作農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業（水利）施設は、水田を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の食生活と文化などを支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然、地勢や地形に溶け込み、地域の文化を育み農村地域の景観を形成する重要な構成要素となっています。人々の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

す。また、現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の形態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物（国外においては日本の関連技術が適用された事例）の匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観の美しさを再評価いただいて、広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：先人たちが現代の技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美」

2. 対象巻号 学会誌第 87 巻（平成 31 年 1～12 月号）

3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（プリントは「写真用紙—フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき 5 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送って

ください。形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 春期 平成 30 年 6 月 30 日

夏季 平成 30 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限り

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考

7. 結果発表

学会誌第 87 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 31 年度大会講演会会場内でパネル展示

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1 点につき 1 万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送り

9. 「Cover History（表紙写真由来）」執筆について

採用作品の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」としてご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせ

10. 使用権・著作権

採用作品の使用権および著作権は（公社）農業農村工学会に属

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り

ください。なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌第86巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 縮 切 (A4判 1,500字以内)
第86巻第3号	農業農村工学におけるICT活用の取組み, 課題と展望(前編)(仮)	公募終了
4号	農業農村工学におけるICT活用の取組み, 課題と展望(後編)(仮)	公募終了
5号	地域資源管理としての鳥獣害対策(仮)	公募終了
6号	ストックマネジメントの現状と課題(仮)	2月10日
7号	大会特集号(京都支部)	公募なし
8号	湖沼の水環境と農業とのかかわり(仮)	4月10日
9号	明治150年と農業土木(仮)	4月20日
10号	農業農村工学分野におけるSDGs(仮)	6月11日
11号	中山間地の持続性, あり方(仮)	7月10日
12号	水田圃場のフル活用(仮)	8月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
(公社)農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: henshu@jsidre.or.jp

第86巻第6号テーマ「ストックマネジメントの現状と課題」(仮)

ストックマネジメントの取組みが本格的に導入されて10年が経過しました。農業水利施設のライフサイクルコストを低減するための体系的な管理手法として、私たちに広く定着してきていますが、さらに効率的な管理手法や制度としてこれを成熟させていく必要があります。

たとえば、それぞれの農業水利施設の機能診断技術について、地域や施設の特性、機能調査の難易度に対応し、かつ効率的で安価な調査を行うため、さまざまな研究や工夫が行われていますが、より一層の高度化が望まれています。

また、ストックマネジメントの手法により作成された保全計画は、ライフサイクルコストという経済的な視点に立って長期の保全対策を見通した、合理的かつ経済的にも有効な実施計画として位置づけられています。しかし施設の劣化予測は、主に経験的な劣化曲線を用いているために一定の不確実性を有しています。さらに、ある種の農業水利施設のように破壊時の影響

が深刻な施設については、経済的な視点のみならず、リスク回避の視点から優先的に対策を行う必要もあります。これら課題に対応した新たな手法の開発と、^{ふくそう}輻轉する視点や条件に対し施設管理者や利水者などの関係者間で合意形成を図るリスク・コミュニケーションの取組みも、今後ますます重要となっております。

このような技術的な、あるいは制度や運用上の課題に対して、これまで関係各所でさまざまな立場での検討や研究がなされています。新知見や発想により、技術的、制度的な進展も目覚ましく、新たな取組みが行われています。

そこで、学会誌第86巻第6号では、ストックマネジメントの現状と課題に関する小特集を組むこととしました。ストックマネジメントに関する先進的な事例などについて幅広く報文を募り、今後の取組みの一助になればと考えています。

第86巻第8号テーマ「湖沼の水環境と農業とのかかわり」(仮)

湖沼などの閉鎖性水域の水環境については、水質汚濁防止法やその特別法である湖沼水質保全特別措置法などにに基づき、都道府県を中心に対策が講じられてきました。それは、流域下水道整備、工場からの排水規制、農業排水対策など、あらゆる側面からの努力の積み重ねでした。経済成長の鈍化の影響もある

とはいえ、河川の水質は改善されたという認識が広く持たれています。他方、湖沼などの水質改善は頭打ちであり、一部には近年悪化するケースも見られます。さらに、これまであまりみられなかった種類の藻の大量発生や、難分解性有機物の蓄積など、新たな課題も浮かび上がってきています。

農業にとって湖沼は主要な用水源であり、また、排水の排出先であるために農業が汚染源になっているという両面的かつ深い関係にあります。このため、水環境の保全にかかる農業面での研究は長期にわたりなされてきましたし、循環灌漑など農業排水からの水環境への負荷を軽減する対策も種々実施されてきました。それらの最前線は今、どういう状況になっているのでしょうか。2018年10月には茨城県つくば市で第17回世界湖

沼会議が開催されます。湖沼の水環境と農業とのかかわりについて改めて考えてみる良い契機にしたいと思います。

そこで、学会誌第86巻第8号では、「湖沼の水環境と農業とのかかわり」と題する小特集を組むこととしました。ダム湖やため池も含めた湖沼の水環境について、行政的な取組みや保全対策の先進的な事例、物質循環も含めた水環境保全にかかる研究の現状や新たな課題などに関する報文を広く募集します。

第86巻第9号テーマ「明治150年と農業土木」(仮)

平成30年(2018年)は、明治維新から150年の節目にあたります。日本が近代国家の礎を築いた明治時代、農業水利の開発や、開墾、耕地整理などの土地改良事業も全国で展開され、日本社会の発展と近代化に大いに寄与しました。

この時代の大規模な農業基盤投資として、たとえば安積疏水や明治用水、手取川七ヶ用水などがあります。これらの水利・開墾事業は、現代の事業規模にも匹敵する大規模な開発事業でした。また日本の従来の水利技術に西洋の技術を取り入れ、現在の工学技術に連なる近代技術を駆使したものでもありました。事業が行われた地域では、その後も長い年月にわたり各種事業が展開され、今に至る地域の持続的発展を遂げています。

「水土の知」第86巻第9号では、これら明治期の開墾事業や水利事業の社会経済的な意義や、事業を現実のものとした当時の工学技術や農業技術を俯瞰するとともに、各事業の契機や時

代背景、事業達成の原動力、当時の事業制度などを点検します。日本は今、人口の減少と高齢化、経済の停滞や地域の衰退といった多くの課題を抱える状況にあります。同じく体制変換という大きな課題を有していた明治という変革期を振り返ることによって、変化する農業構造への対応など農政が直面する困難な課題を解決する方策を展望し、また歴史認識を通じて、持続的な農業生産に向けた今後の農業農村工学(農業土木)の社会的役割と意義を再確認する契機にしたいと思います。

「故きを温ねて新しきを知る(温故知新)」の言葉にあるとおり、近代化の過程を顧みるとともに「明治の精神に学び、日本の強みを再認識すること」(内閣官房「明治150年」関連施策推進室)を、農業農村工学の分野でたどるために、関連する報文を広く募集します。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2016年7月から2018年6月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)

⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界14カ国からEditor(20名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2016年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

- ・Editor-in-Chief: Dr. Takao MASUMOTO (Japan)
Institute for Rural Engineering, NARO (National Agricultural Research Organization), Tsukuba, Japan
- ・Editors 14カ国から20名
- ・Advisory Editing Board 29名
- ・Chief Management Editor
Dr. Yu-Pin LIN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Rep. of China
- ・Managing Editors
Dr. Jin-Yong CHOI
Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul

National University, Korea

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Rep. of China

Mr. Nobuyoshi FUJIWARA

Rural Development Division, Japan International
Research Center for Agricultural Science (JIRCAS),
Japan

Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata
University, Japan

編集事務局 (2016年7月から2018年6月まで) :

・ **Dr. Yu-Pin LIN**

Distinguished Professor, Ph.D.

Department of Bioenvironmental Systems, Engineering,
National Taiwan University

No.1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei 10617, Taiwan,

Rep. of China

TEL : + 886-2-3366-3467, + 886-2-2368-6980

FAX : + 886-2-2368-6980

E-mail : yplin@ntu.edu.tw

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 12,343円

学生会員 (院生含む) 8,743円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になります。

冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局

平成29年度東京フォーラム (農村振興研修会) の開催について

技術者継続教育機構認定プログラ申請中



平成30年度農業農村整備関係予算の政府原案が決定されました。担い手への農地集積等による構造改革や輸出強化等のポイントを推進するとともに、厳しい予算情勢の中で、農業農村整備事業予算の増額が盛り込まれました。高齢化が進む人口減少社会の中で強く・儲かる農業に向け、農地の集積・集約化や輸出強化が求められる中で、農業の基盤づくりはますます重要になっています。

このため、今年度の東京フォーラムでは、農業を取り巻く国際情勢や輸出強化の現状、中間管理機構との連携による基盤整備を契機とした農地の集約化の事例等について最新情報を提供し、農業農村の振興について多くの参加者と情報を共有するとともに、平成30年度農業農村整備関係予算政府案について農林水産省の担当官より情報提供することといたしました。

標記テーマについて農業農村整備の展開方向等について考える契機となるよう企画しましたので、会員をはじめ皆様のご参加をお待ちしています。

1. 主催 全国農村振興技術連盟
(公社)農業農村工学会

2. テーマ
基盤整備と連携した担い手の育成と輸出強化
～農業を取り巻く国際情勢と農地中間管理機構～
(平成30年度農業農村整備関係予算政府案の概要)

3. 開催日 平成30年2月22日(木) 9:50～17:00
受付は9:15から行います。

4. 場所 東京都千代田区北の丸公園 2-1

科学技術館 地下2階 サイエンスホール

TEL : 03-3212-8485

5. プログラム

(講師およびテーマに変更がある場合があります)

9:50～10:30 開会挨拶

全国農村振興技術連盟委員長 林田直樹
(公社)農業農村工学会会長 久保成隆
梶木賞・広報大賞表彰式

10:30～11:50 1. 講演

「農業の国際化の進展」(仮題)

明治大学農学部食料環境政策学科准教授 作山 巧

11:50～12:50 (昼食・休憩)

12:50～14:00 2. 講演

「日本産農産物の輸出促進」(仮題)

農林水産省大臣官房参事官 天野正治

14:00～15:00 3. 講演

「農地中間管理機構について」(仮題)

農林水産省経営局農地政策課経営専門官 阿部一徳

15:00～15:10 (休憩)

15:10～16:20 4. 講演

「基盤整備と連携した農地流動化」(仮題)

(公社)秋田県農業公社理事長 三浦庄助

16:20～17:00 5. 講演

「平成30年度農業農村整備関係予算政府案の概要」(仮題)

農林水産省農村振興局設計課技術調査官 荻野憲一

6. **参加費** 8,000円(昼食代は含まず。参加費は当日会場で申し受けます。)
7. **申込み・問合せ先**
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
全国農村振興技術連盟

TEL: 03-3434-5407 FAX: 03-3578-7176
E-mail: kensyu@n-renmei.jp
申込方法等の詳細は全国農村振興技術連盟ホームページ(<http://www.n-renmei.jp/>)をご覧ください。

平成29年度農業水利研究部会研究集会の開催について(第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業水利研究部会では、平成29年度農業水利研究部会研究集会を下記のとおり開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

1. **日時** 平成30年2月17日(土) 14:00~17:00
2. **場所** 東京農業大学 1号館113教室
東京都世田谷区桜丘1-1-1
(小田急線経堂駅下車 徒歩15分)

3. **テーマ** 農業用水の管理を考える
4. **題目および講演者**
「農業農村および農業水利研究への多面的アプローチ
～農業水利研究部会活動を顧みて～」

東京農業大学名誉教授 中村好男

「農業用水を巡る情勢の変化(仮)」
農村振興局整備部水資源課 高阪快児
「圃場内と圃場外の水利システム」
農研機構農村工学研究部門 樽屋啓之

5. **参加費** 500円(予定)
6. **参加申込みおよび問合せ先**

農業水利研究部会事務局
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
宇都宮大学農学部農業環境工学科 松井宏之
TEL&FAX: 028-649-8638
E-mail: matsuih@cc.utsunomiya-u.ac.jp

水土文化研究部会第15回研究会の開催について(第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



今、わが国の〈水土〉は各地で危機に瀕している。現状に目を凝らし、未来に向けてこれを継承していくため、「かたち」と「こころ」の二つの視点が重要と考える。

「かたち」は工学が得意とする対象であり、操作や配慮もしやすい。一方、目に見えない「こころ」は扱いづらい。「動く」、「揺れる」、「変わる」といった動詞を伴いやすいことに象徴される。また、芸術から受ける感銘のように、「かたち」を媒介して感受されることもある。

育み継承していくべき〈水土〉の「こころ」とは何か。さまざまなアプローチから考えていきたい。

1. **テーマ** 水土の“こころ”
2. **日時** 平成30年3月9日(金) 13:00~16:00
3. **場所** 農業土木会館2階A会議室
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
TEL: 03-3434-0461

4. **プログラム**

講演「“こころ”をつなぐ」
豊田土地改良区資料室長(愛知県立大学講師) 達 志保
「“こころ”をはかる」
農研機構西日本農業研究センター主任研究員 廣瀬裕一

パネルディスカッション
「水土の“こころ”」

コーディネーター: 広瀬 伸

5. **参加費** 無料
6. **参加申込要領**
整理の都合上、3月1日(木)までに以下の要領にてお申し込みください。

氏名 _____ (CPD番号 _____)
所属機関 _____
所在地 _____
電話番号 _____
FAX番号 _____

*部会員以外の方も参加できます。

7. **申込み・問合せ先**

〒305-8609 茨城県つくば市観音台2-1-6
農研機構農村工学研究部門 地域資源工学研究領域
地域エネルギーユニット ユニット長 後藤真宏
TEL: 029-838-7548 FAX: 029-838-7609
E-mail: griese@affrc.go.jp

第3回理論応用力学シンポジウムの開催について

古典力学は、機械力学・材料力学・流体力学・熱力学のように、すでに完成された基盤学問のように捉えられがちですが、自然界にはまだまだ理論モデルが構築されていない未解決の力学の問題が多数存在します。一方、ディープラーニングに代表される近年の人工知能の発達には、多くの分野に新しいブレークスルーをもたらすと期待されており、未解決の力学問題の解決にも、今後大きく寄与していく可能性があります。本シンポジウムでは、古典力学研究の裾野を広げうる先端的研究に関する最新動向を俯瞰するとともに、古典力学を基盤とする研究者が人工知能学など異分野と協働して今後切り開くべき新しい次世代力学研究を展望します。次世代の力学を担う多くの学生や若手研究者の参加を期待します。

- 主催** 日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同力学基盤工学分科会
- 共催** 農業農村工学会ほか22学協会（予定）
- 日時** 平成30年3月5日（月）13:00~17:00
- 場所** 日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（東京メトロ千代田線「乃木坂駅」5番出口、徒歩1分）
- 参加費** 無料（事前申込み不要、直接会場にお越しください。）
- プログラム**
司会：高木 周（東京大学大学院工学系研究科教授）
13:00 開会の挨拶

- 慶應義塾大学理工学部教授 菱田公一
- 13:10 基調講演
「生物の力学的戦略：人体の複雑性に宿る知能の単純性」
東京大学大学院工学系研究科教授 中村仁彦
- 13:50 招待講演（1）
「非平衡系の輸送現象：熱が拓く生命の起源と分子技術」
九州大学理学研究院准教授 前多祐介
- 14:20 招待講演（2）
「高速射出微細気泡による非定常現象と機能創発」
九州大学大学院工学研究院教授 山西陽子
- 14:50~15:10 休憩
- 15:10 招待講演（3）
「多足歩行に内在する力学特性と運動機能」
京都大学大学院工学研究科講師 青井伸也
- 15:40 招待講演（4）
「ニホンザル二足歩行の力学から探るヒトの進化」
慶應義塾大学理工学部教授 荻原直道
- 16:10 パネルディスカッション
16:50 閉会の挨拶
東京工業大学大学院理工学研究科教授 岸本喜久雄
6. 問合せ先
九州大学大学院工学研究院教授 高田保之
E-mail: takata@mech.kyushu-u.ac.jp

第55回アイソトープ・放射線研究発表会発表論文の募集について

アイソトープ・放射線研究発表会は、さまざまな専門分野の研究者が一堂に会し、アイソトープと放射線の理工学、ライフサイエンス、薬学、医学への利用技術を中心とした研究およびその基礎となる研究発表と討論を行います。奮ってご応募、ご参加くださいますようお願いいたします。

詳しくは第55回アイソトープ・放射線研究発表会ホームページ (https://www.jrias.or.jp/isotope_conference/) をご覧ください。

- 主催** (公社)日本アイソトープ協会
協賛・後援 (公社)農業農村工学会ほか62学協会（予定）
- 開催日** 平成30年7月4日（水）~6日（金）
- 場所** 東京大学農学部弥生講堂
（東京都文京区弥生1-1-1）
- 発表申込資格**
(1) それぞれの研究分野において専門的な成果を得た、放射性同位体、安定同位体や放射線の利用研究、およびこれ

ら利用の基礎となる研究であること。

- 発表内容の一部または全部が未発表であること。
- 筆頭発表者および共同発表者のうち、少なくとも一人が本研究発表会の主催、協賛および後援学協会いずれかの会員であること。
- 発表申込締切** 平成30年2月28日（水）
- 講演要旨原稿締切** 平成30年4月12日（木）
- 申込方法等**
発表申込要項、参加費等の詳細は第55回アイソトープ・放射線研究発表会ホームページをご覧ください。
- 問合せ先**
第55回アイソトープ・放射線研究発表会 事務局
(公社)日本アイソトープ協会
学術振興部 学術課
TEL: 03-5395-8081 FAX: 03-5395-8053